

# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

丹波市立氷上中学校 R7年12月

本年4月16日(水)・17日(木)、中学3年生を対象に国語・数学・理科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校とともに学習や生活について考えていただく機会になればと思っています。

## 1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ②調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

### 【国 語】 全国平均と同程度でした

#### 【成果】

- ・「書くこと」「読むこと」に関する中で、特に読み手の立場に立って表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問いは、全国平均を上回った。
- ・無回答率がすべての問題で低く、あきらめずに解答しようと取り組んでいた。
- ・読書が好きと回答した生徒は、全国平均を上回った。

#### 【課題】

- ・「話すこと」「聞くこと」に関する中で、特に資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問いに課題が見られた。
- ・「短答式」「記述式」の問題形式は全国平均を上回ったが、「選択式」は課題が見られた。
- ・文章を読み、その文章の構成や展開にどのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていると回答した生徒は、全国平均を下回った。

#### 【改善の方向性】

- ・読解力を高めるため、文章を読む機会を増やし、集中して読解にかかわる時間を増やす。
- ・自分の考えを工夫して伝えられるように発表の機会を増やす。
- ・ペアワークやグループワークで話す機会を増やし、他者の意見のキーワードをメモし、多角的に考える授業になるよう工夫する。
- ・古典や詩歌の分野の学習内容を見直し、基礎基本の定着を図る。
- ・選択式の問題の解き方の基礎基本の定着を図り、授業内でも選択式の問題に触れる機会を増やす。

### 【数 学】 全国平均と同程度でした

#### 【成果】

- ・図形、関数、データの活用の3分野では全国平均を上回った。特にデータの活用では、実験を取り入れるなど実感を伴う学習を行った成果と考える。
- ・「数学が好き」と回答した生徒は全国平均と同程度であったが、「得意」と回答した生徒は上回った。
- ・無回答率がほとんどの問題で低く、あきらめずに解答しようと取り組んでいた。

#### 【課題】

- ・数と式の問題の中で、素数の意味を理解しているかをみる問いと目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する問いは、全国平均を下回った。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問いは、無回答率が高かった。数学的な用語や表現を用いて説明することや、問題を深く読み取ることに課題があると考ええる。

#### 【改善の方向性】

- ・学び合いを軸とした授業を展開する。自分の考えを持つための個人思考の時間を確保したあとで交流し、理解を深めるようにする。その中で、数学的な表現を使うことや根拠を明確にすることを意識できるようにする。
- ・基礎計算の反復や既習事項の復習については、今後も小テスト等を継続的に実施し、数学的な土台を形成する。
- ・課題解決につながる情報を選択・判断・活用する力をつけさせるため、読解するポイントや既習事項との関連性を明確にし、丁寧に解説を行う。
- ・答えの正誤だけでなく、生徒の粘り強い取り組みを評価することで、あきらめずに取り組むことに対してしっかり価値づけをする。

### 【理 科】 全国平均と同程度でした

#### 【成果】

- ・多くの問題で無回答率が全国平均より低く、理科が好きと回答した生徒は、全国平均を大きく上回った。
- ・「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする領域は、全国平均より高い正答率であった。
- ・日々の授業において、実験や観察を積極的に行ったり、その単元で必要となる知識技能の反復練習を行ったりする活動を取り入れたことが効果的であったと考える。

#### 【課題】

- ・エネルギー分野の問題や身近な電化製品の電気回路の問題で正答率が低かった。電気分野には、苦手意識をもち、その学習した知識技能を日常生活と結び付けられていない生徒が多いと考える。
- ・問題形式別では、「選択式」と比べると「記述式」の無回答率が高く、文章での説明に課題が見られた。

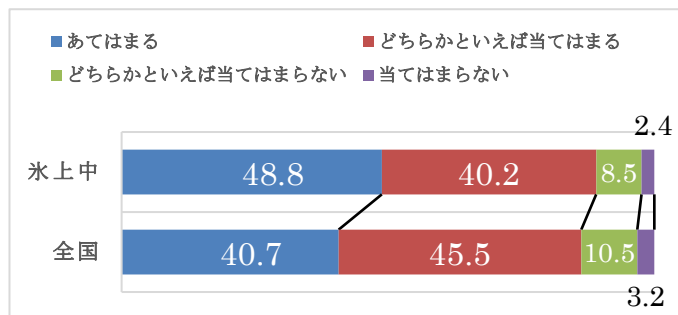
#### 【改善の方向性】

- ・引き続き実験や観察を積極的に行い、現象を身近に感じさせられるようにする。時には教科書に載っていない実験も行い、生徒たち自身で考えて仮説を立てられるようにする。
- ・授業の初めには、その単元で必要となる知識技能の反復練習を行い、「わかる」という実感をもたせるような活動を取り入れる。
- ・ペアワークやグループワークで話す機会を増やし、多角的に考え意見を述べる機会や、レポートにまとめる機会を増やす工夫をする。
- ・日常生活との結びつきに注目して、授業でも教科書に書いてあることの紹介だけでなく、実際に演示するなどして、印象を強く与えられるようにする。

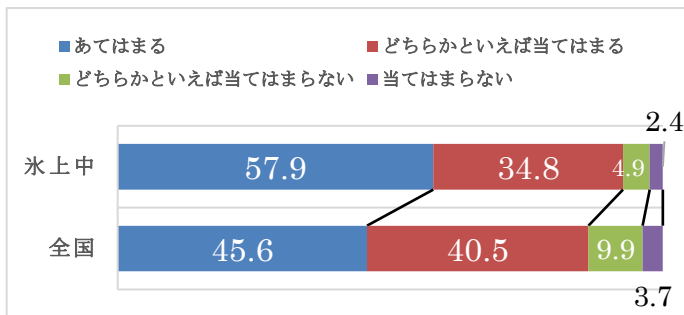
### 3) 生徒質問紙から見える成果と課題

#### 自尊感情・自己有用感

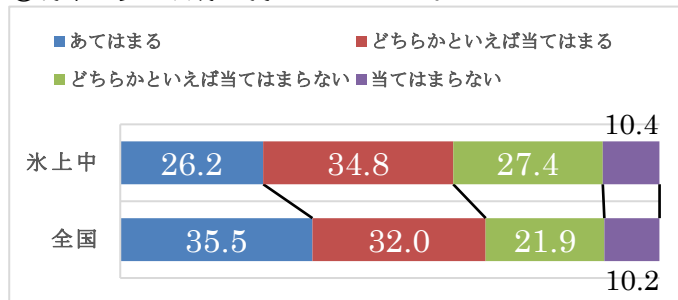
①自分には、よいところがあると思いますか。



②学校に行くのは楽しいと思いますか。



③将来の夢や目標を持っていますか。



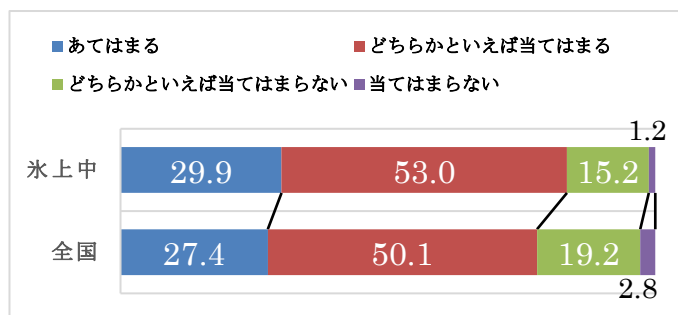
自分自身を肯定的にとらえている生徒や、学校へ行くのは楽しいと回答した生徒は、全国平均より高い結果となりました。一方で将来の夢や目標をもっている生徒は少ない結果でした。

探究活動やトライやる・ウィーク、地域でのボランティア活動など、自主的・主体的な活動により、自分のよさを理解し、未来をイメージする機会を確保することで、将来に夢や希望が持てる生徒の育成を目指します。

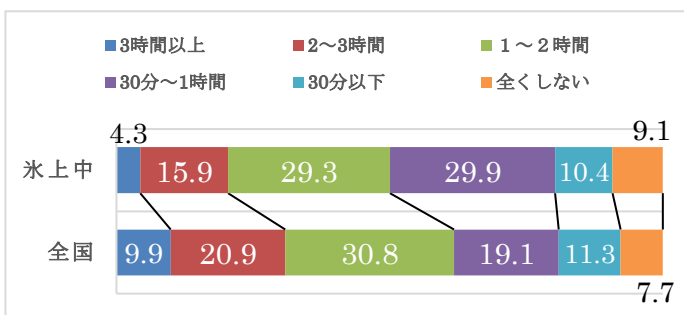
また、生徒自身が「自分たちが学校を創っていく」という当事者意識を高め、生徒の力による学校づくりや学級づくりを推進します。

#### 学習習慣

④分からないことは、自分で考え工夫していますか。



⑤普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。

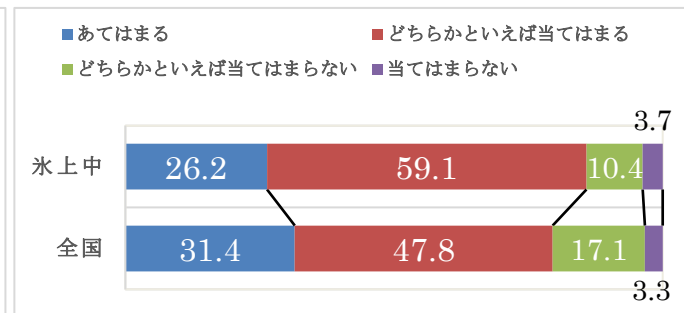
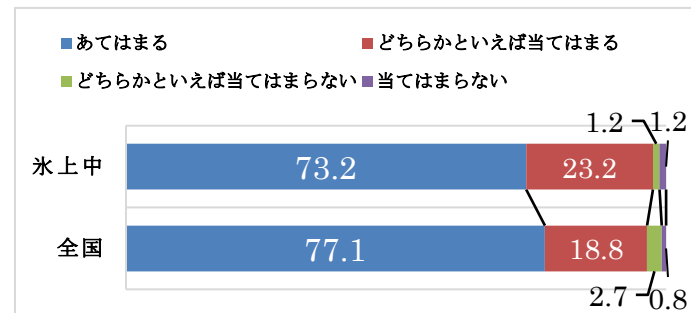


分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫しようとする生徒は全国平均より高い結果となりました。また、学習した内容について見直し、次の学習につなげようとしている生徒も同様で、主体的に学習に向き合う姿勢の向上がみられます。

しかしながら、家庭学習の時間には課題があります。学校では、「学習の時間」を設け、学習能力を高める取組を通して、自分自身の学習方法を理解し実践できるようにするとともに、計画的な学習習慣を身につけられるよう自己管理能力の向上を目指します。ご家庭においても、学習環境を整えることやスマホやゲームの使用ルールを作成するなど、学習に向かう子どもたちの支援をお願いします。

#### 向社会性・生活習慣

⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。 ⑦自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



今後も、いじめはすべての生徒が絶対に許さないと考えるよう、すべての教育活動を人権基盤で捉え、生徒との対話を重視し、内面理解に努めます。そして、自分と違う意見も受け入れたら、困っている人を進んで助けようとしたりするなど、多様な価値を認め他とともに大切に学校づくりを進めてまいります。また、グラフは載せていませんが、朝食の有無、および就寝・起床時刻の結果より、多くの生徒が安定した生活習慣を保っていることがうかがえます。引き続き基本的な生活習慣の維持をお願いいたします。